



# みちのく

岩手県 湯田町湯川温泉

# ココロとカラダの癒し旅

## 湯づくしの町・岩手県湯田町

秋田自動車道で秋田を出発して県境を越え、最初のインターチェンジを降りると岩手県湯田町がある。

湯田という町名からも想像できるように、昔から温泉がふんだんに湧き出す土地柄だ。この山あいの小さな町に、湯本温泉、湯川温泉、菓郷温泉など、古くから知られた温泉のほか、砂風呂を楽しめる槻沢温泉などの新興の温泉を含めると町内に九つもの温泉地があり、三十軒余りの温泉宿が軒を連ね、あるいは点在している。

町の中心部に位置するJR北上線の「ほつとゆだ」駅は、駅舎の中に立ち寄り温泉があるユニークな駅で、また、町内を東西に横断する秋田自動車道の錦秋湖サービスエリア内にも温泉入浴施設がある。

温泉は人々を癒すだけでなく、スッポンの養殖や花き栽培などの地場産業にも利用されている。湯田はまさしく「湯づくしの町」なのだ。

## 秋田とゆかりの深い湯川温泉

さて、この湯田町、れっきとした岩手県の町でありながら、実は秋田とも随

分ゆかりが深い。

湯本温泉を発見したのは秋田仙北のマタギと語り伝えられているし、江戸時代の宝暦十三（一七六三）年に著された『沢内年代記』にも、「湯川温泉には、羽州秋田の人々が毎年夏から秋にかけて、老若男女、僧侶までが続々とやってきて、その数年中二千人：」とある。昭和三十年代の資料を見ても、湯川温泉の年間利用客の60%、過半数を秋田からの湯治客が占めている。

そんなこともあって、秋田からこの地へお嫁に来ている人も少なくないようだ。湯田町民の多くは秋田に親しみを感じ、将来、市町村合併があるとすれば、秋田県側の市町村と合併してほしいと思っている人も少なくないとか！

秋田でも特に県南地方では、岩手の湯川温泉といえば、僕たちの祖父母曾祖母の世代には、懐かしい響きに感じるのではないだろうか。

大正昭和の時代、我が家や親戚のじいちゃんばあちゃんたちが骨休めしたであろう湯治場の湯に、平成を生きる僕たちが浸かつてみるのも、また面白い趣向ではないだろうか。



# ◆御宿 末広◆

## 初めに”食“ありき

湯川温泉の宿の多くは、湯治客を対象にしており、自炊設備を持つなど、庶民的なたたずまいを見せている。その中で「御宿 末広」はやや異色の存在。

末広の一番の自慢は料理。多くの馴染み客が末広の料理食べたさに何度もこの宿に足を運ぶ。

末広が料理自慢の宿になるのには布石があった。現在の当主・高鷹政明（四十二歳）さんは三代目になるのだが、末広が宿泊客をとるようになったのは三代目になってからほんの十五年ほど前のこと。それまでは、温泉街全体の湯治客を相手に、魚屋、食堂、仕出し屋として商売をしていた。湯治客は、宿には素泊まりで泊まり、滞在中は自炊をしたり外に食べに行ったりする。そういう湯治客相手に、「食」の面を世話する商売も、温泉街には欠かすなかつたのだ。

十五年ほど前から旅館営業を始め、昨年改装をして、民芸調の上品なたたずまいの宿になった。部屋数七室、収容人員四十名のこぢんまりとした宿だ。

玄関に入ると、スリッパが置いていない。館内は素足で移動する。ちよと意表をつけているが、素足で歩く感触はなかなか悪くない。宿の側からすれば、掃除が行き届いていなければお客には勧められない趣向だ。この宿の心意気を感じられる。

## 献立はオーダーメイド

さて、あなたがこの宿に泊まろうとして電話で問い合わせをするとしよう。その際あなたは、宿から質問をされる。「どんな料理をご用意しましょうか」と。

末広の夕膳に定型はない。まずお客の希望を聞く。確かに、居住地や年齢によっても食の好みは様々だ。だから、お客の食べたいものをあつらえるのが何よりもてなすと、末広では考えている。海の物主体、山の物主体といった注文から、たとえば高齢者向けに柔らかいものをとか、結婚記念日の旅なので何かそれにふさわしい料理をと注文しても、末広は必ず応えてくれる。

宿は山深い土地にあるのだが、市場が近いので新鮮な魚介類の仕入れにも事欠かない。また、湯田町は山菜の宝庫なので、山菜料理ならいくらでも用意できるのだが、みずから料理の腕をふるう当主・政明さんは「素材に頼るのではなく、それをいかに美味しく食べていただくかということに、料理人としての腕を賭けたい」と言い切る。これだけの気概にあふれた宿だから、常連客も多い。「馴染みのお客様には、あまり宣伝はしないでほしいと言われています」と、政明さんは苦笑する。

## 親戚の家に泊まりに行く感覚

面白いことに、やはり湯川温泉ならではの伝統か、この宿でもお客の八割がたは秋田からのお客なのだそう。この記事を読んでいる秋田人の中には、「この宿だけは紹介してほしくない



夕膳のスッポン酒

「スッポン料理で元気になりましょう」とご主人の高鷹さん



イワナの塩焼き 焼き立てのあつあつをどうぞ!



イワナのあんかけ

地元産西和質牛のカルパッチョ



スッポン鍋

ご希望ならこんなものも  
左はスッポンの心臓  
右はスッポンの胆のう



大根の一本漬はこの地方の伝統的な漬物



## かつて湯田は鉾山町だった

現在の湯田町は、人口四千五百人  
足らずの山あいの静かな町だが、昭和  
三十年代には現在の三倍近い一万三  
千人もの人口があった。それというの  
も、かつての湯田は東北でも有数の銅

## ◆旅荘 ふる里◆



ロビーにあつらえた囲炉裏



料亭のような瀟洒(しょうしゃ)な雰囲気の会食場

の産出地で、町内には多数の鉾山があ  
った。その数は明治から昭和にかけて  
延べ二十近くにもほる。この山あ  
いの町に大勢の鉾山従事者と家族が住  
んでいたわけだ。その鉾山群の中でも  
比較的規模の大きかった土畑鉾山が、  
湯川温泉の手前にあった。最盛期の従  
業員は六百人余り。その鉾山従事者

「かっ」と地団駄踏んでいる人もい  
るだろう。  
ちなみにご紹介をしておけば、当主  
のお母さんは横手市の出身、おばあち  
ゃんは平鹿町の出身なのだそうだ。こ  
れではもう、秋田人としては、一度は  
「湯川温泉の末広」に行かねばならな  
いだろう。  
宿は昨年の改装で内外観に小粋さ  
をまとったが、本体の構造は一時代前  
の旅館建築のままのため、トイレは客  
室の外にある。現代の旅行者にはあま  
り好まれない構造かもしれないが、考  
えてみれば、親戚の家に泊まると思え  
ばまったく苦にならないことである。い  
や、無理にそう思わないまでも、本当  
に、隣の県に住む料理好きのおじさん  
の家に遊びに行く感覚：といったもの  
が味わえるのが、末広の持ち味なの  
だ。  
湯田町は温泉を活用したスッポンの  
養殖にも力を入れている。末広でもス  
ッポン料理はお薦めの一品。健康増進  
のためスッポン料理を楽しみに訪れる  
お客も少なくない。  
夕膳のデザートには季節の山野の植  
物が使われる。この春はパッケ(ふきの  
とう)アイスの予定。食べてみたいと思  
いません？



朝食膳

男女別の浴室はこじんまりと  
まとまっている



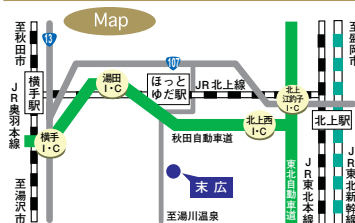
館内は民芸調の演出

## SUEHIRO

### 施設のご案内

- 客室 7室
- 収容人員 45名様
- 浴室 ひのき風呂  
気泡風呂
- 宴会場 大広間50名様  
中広間
- 駐車場完備
- 送迎用マイクロバス有り

お一人様1泊2食付  
10,000円より(税別)



## 御宿 末広

〒029-5514 岩手県和賀郡湯田町湯川温泉

Tel.0197-82-3024 Fax.0197-82-3023

ホームページ <http://www.yoionsen.com>

Eメール [suehiro@yoionsen.com](mailto:suehiro@yoionsen.com)

かつて銅の産出で活況を  
呈した土畑鉾山の跡



廊下に展示された鉱石が鉱山保養所時代の名残り

### 露天風呂の野趣は湯田随一

「ふる里」では、日帰りの入浴客もずいぶん多い。特に休日には湯田町内

支那人さんに伺った話では、年輩の二人連れのお客が多いそうだが、なるほど、たまに夫婦で山の宿でのんびり過ごそうなどという趣向には、おあつらえ向きの宿なのだ。ただし、浴室付きの部屋は少ないので、予約はお早めに。このほかに、家族風呂もあって、宿泊客は無料で利用できる。子供連れのヤングファミリーには家族で一緒に入れて好都合だろう。

### 二人でくつろぐ山の宿

湯川温泉の多くの旅館は、近郊近在の人々に親しまれてきた庶民派の宿だが、「ふる里」はどちらかといえば旅行者向き。お望みであれば専用浴室付きの部屋もチョイスできる。一般の温泉ホテルでは浴室付きの客室があつても、浴室の湯は水道水を沸かしたものが普通だが、「ふる里」では贅沢にも大浴場と同じナトリウム塩化物・硫酸塩泉の天然温泉が注がれている。大浴場まで足を運ばなくとも、存分に湯川温泉の温泉情緒を堪能できるわけだ。

や家族のための温泉保養施設も、湯川温泉にはあった。それが現在の「旅荘 ふる里」だ。鉱山の閉山と前後して、保養施設から一般客向けの温泉宿泊施設に衣替えたわけだ。旅館営業を始めてかれこれ二十年。四年前には新館も完成し、閑静な山峡の宿としての趣に磨きがかかった。

南部地鶏のしゃぶしゃぶが名物



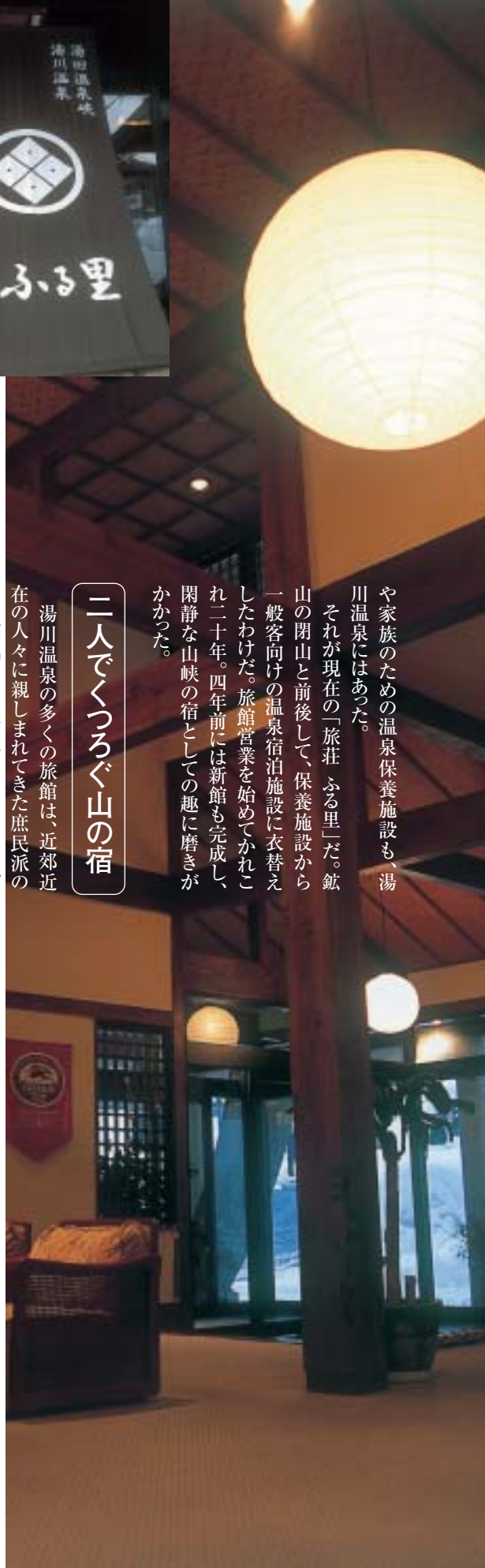
家族連れやカップルなら家族風呂も利用したい



浴室付きの客室も2室ある。もちろん温泉のお湯



大浴場の大きな湯船になみなみと熱めの湯が張られている





ライトアップされた夜の露天風呂。四季折々の風情がいい

野趣豊かな露天風呂は宿の自慢の一つ

のみならず北上市や横手市からも大勢やってくる。他にも温泉はいくらでもあるのに...と思うのだが、この宿ならではの広々とした大浴場と、それに続く露天風呂が、温泉好きを魅了するようだ。

露天風呂のすぐ目の前を、鬼ヶ瀬川という溪流が流れている。その対岸は切り立つ山肌。冬の雪、春の新緑、夏のカジカガエルの合唱、秋の紅葉と、四季折々の変化に富んだ野趣を、湯船に浸かったままで堪能できる。「この露天風呂の開放感が当館の自慢です」と、支配人さんは誇らしげに語った。

湯は無味無臭。透明なきれいな湯だが、湯冷めのしない、あたたまりの湯だ。大浴場の湯船の湯温は、やや熱めの四十二度に設定しているという。露天風呂の方は外気に冷まされて少しぬるめ。お好みで選んでのんびり浸かるのがよらしい。

二つの源泉から引いている湯量は豊富。もちろん湯船に注がれる湯は源泉100%。古来より秋田人に親しまれ続けてきた湯川温泉の湯を、たっぷり

堪能していただきたい。

もう一つ、水にちなんだ話題。「ふる里」では、飲み水や調理に使う水はすべてわき水でまかなっている。蛇口をひねれば、そこからは大自然のフィルターを通ってきたばかりのミネラルたっぷり天然水があふれだす。町場に住んでいる者としては、「水ってこんなにおいしかったのか!」と、感動すら覚えるだろう。

その天然水を使って、山の幸ふんだんのご馳走が夕膳を彩る。湯田町は山菜のメッカ。山菜料理がお好みなら、「ふる里」は十分に選択肢の一つだ。

その山菜のシーズンとなる六月中旬から七月中旬頃にかけては、お客のリクエストで「山菜採りツアー」のお手伝いもしているとか。食べ

るだけではなく、山に分け入って自分の手で山菜を採る醍醐味も、味わってみてはいかがだろうか。

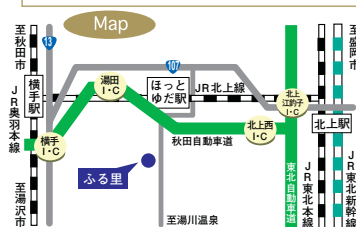
(文・写真Ⅱ  
かとうりゅうつづⅡ秋田市)

## FURUSATO

### 施設のご案内

- 客室 18室
- 収容人員 90名様
- 浴室 男性風呂  
女性風呂  
家族風呂  
男女露天風呂
- 宴会場 大中宴会場  
(舞台付)
- 専用駐車場 150台

お一人様1泊2食付  
本館 7,800円より(税別)  
新館 9,800円より(税別)



# 旅荘 ふる里

〒029-5514  
岩手県和賀郡湯田町湯川52-17  
Tel.0197-82-2226  
Fax.0197-82-2187